

宿毛市大島の鵜神社の石段に示された南海トラフ 巨大地震による津波の遡上高

七山 太¹⁾・山口龍彦²⁾・重野聖之³⁾

近い将来、南海トラフ巨大地震が発生した場合、高知県南西部に位置する宿毛市^{すくも}では、地震発生後10～20分程度で津波が到達し、最大水深高が10mを越えることが、既に公表されている(高知県, 2017)。宿毛市大島地域の住宅地の背後に鎮座する鵜神社^{はいたか}は、14世紀の南北朝時代からの所縁を持つ古社である。この神社の石段には、過去2回の南海トラフ巨大地震の津波遡上高を示す石碑が建立されており、古来より住民に対し、津波に対する警戒を喚起していたことが窺われる。

第1図 鵜神社の鳥居と石段(右)



第2図 石段脇に建立された津波の遡上高を示す2本の石碑。1854年安政南海地震(Mw8.5-8.7)の大津波は下から7段目(標高3.2m)まで(左下)、1707年宝永南海地震(Mw8.7-9.3)の大津波は39段目(標高9.8m)まで(右下)到達したことが示されている。一方、1946年昭和南海地震(Mw8.4)の津波は石段下まで到達しなかった(標高2.5m)(村上ほか, 1996)。



1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門 2) 高知大学海洋コア総合研究センター 3) 明治コンサルタント株式会社



第3図 鷲神社の境内の標高は10.7mであり、大島地域の住民の津波避難所も兼ねている。



第4図 明瞭な沈水地形を示す松田川河口と低地に立地する現在の宿毛市街地。宝永および安政南海地震の大津波が松田川を遡上し、宿毛城下の市街地が、地震・火災とその後襲った大津波によって壊滅的な被害が生じたことが古文書に記録されている(村上ほか, 1996)。

文 献

高知県 (2017) 津波浸水予測図, http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/files/2012121000171/2012121000171_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_attachment_84052.pdf (2017年2月22日確認)

村上仁士・島田富美男・伊藤禎彦・山本尚明・石塚淳一 (1996) 四国における歴史津波の津波高の再検討. 自然災害科学, 15, 39-52.

NANAYAMA Futoshi, YAMAGUCHI Tatsuhiko and SHIGENO Kiyoyuki (2017) The tsunami run-up height due to the historical Nankai trough megathrust earthquakes recorded on the stone steps of the Haitaka Shrine in Ōshima, Sukumo City.